

動物に対する理学療法

動物に対する理学療法部門

運営幹事 児玉 綾香

2019年5月8日

1. 動物に対する理学療法とは

徒手療法、運動療法、物理療法など理学療法を人間が対象ではなく「動物」そのものに実施します。乗馬療法や補助犬など動物を用いてヒトを治療する動物介在療法や動物を用いた基礎的研究などは含まれません。



2. 海外では動物理学療法は理学療法士が行っている

オランダ、フィンランド、イギリスをはじめとする十数か国で、すでに理学療法士が動物に対して理学療法を行なっています。これらの国は理学療法士免許を取得後に各々の教育機関で動物理学療法教育を受け、動物理学療法士（名称は各国で異なる）として獣医療で活動しています。世界理学療法連盟（WCPT）でも2011年に12のサブグループのひとつとして動物に対する理学療法部門 International Association of Physical Therapists in Animal Practice; IAPTAP）を設立し、世界では理学療法士が動物理学療法に従事していく流れがあります。日本では、現在すでに十数名の理学療法士が動物病院などの獣医療施設で活動しています。

3. 理学療法士に最も期待される分野は伴侶動物（犬）



対象動物は馬などの産業動物から家族として位置づけられる伴侶動物（いわゆるペット、主に犬や猫）、動物園に展示されている展示動物、野鳥などの野生動物など対象は多岐にわたります。動物理学療法は1960年代に海外で馬に対して行われたのがはじまりで、国内でも50年以上前から競走馬に対して行われていますが獣医師やトレーナーがおこなっているのが実際です。しかし、1980年後半から伴侶動物を対象とする動物理学療法がアメリカで注目されはじめ、2000年に入って日本の獣医療でも動物理学療法の重要性が認識されはじめました。さらに犬や猫が家族の一員として大切にされ、その重要性は年々増していっています。現在、理学療法士の活躍が特に期待されているのは伴侶動物を対象とする分野で、主に犬が対象となっています。

4. 寝たきりの犬、仕事をもつ犬、スポーツをする犬にも必要とされている

一番多い対象となる犬はいわゆるペットで、ケガや疾患の術後に理学療法が行われている場合が多いです。しかし、近年は動物の寿命が長くなり高齢犬が増加し、寝たきりになる犬も増えています。そのため、動物

介護の分野でも理学療法のニーズは高まってきています。また、補助犬などの人を支える動物が怪我などした場合の仕事の早期復帰のサポートやスポーツを行う犬の競技復帰などのサポートも期待されています。これから獣医療でも理学療法が必要となる分野はさらに広がってくると思われます。



寝たきりの犬



補助犬

提供：社会福祉法人 介助犬協会



競技犬

5. 理学療法の対象疾患は人間と共通するものが多い

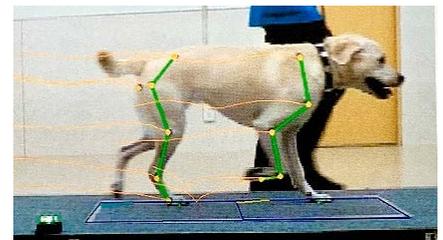
理学療法の対象は人間と共通する疾患も多いです。しかし、原因が人間とは異なったり、治療法が動物特有のものもあります。動物での主な対象疾患を以下に記載します。

- ◆ 椎間板ヘルニア（頸部、胸腰部）
- ◆ 外傷性脊髄損傷
- ◆ 前十字靭帯断裂
- ◆ 股関節形成不全
- ◆ 変形性股関節症
- ◆ 股関節脱臼
- ◆ レッグ・カルベ・ペルテス病 など

6. 理学療法士としての知識や技術が動物にも応用できる可能性

動物の理学療法はまだまだ新しい分野です。理学療法に必要な運動学・運動力学などの基礎分野の研究も動物では始まったばかりで報告も十分にありません。以下の動物の学問に関する理学療法学領域の研究にも理学療法士の関わりが期待されます。

- ✚ 身体運動学、神経生理学、運動生理学などの基礎理学療法学
- ✚ 評価学
- ✚ 運動療法学、物理療法学などの治療学 など



犬の床反力測定

7. 動物理学療法士の資格制定を目指して



当部門は、理学療法士が獣医療での活躍の場を拡大することを目指して、理学療法士が動物に関わっていくうえで必要となる基礎学問や技術をお伝えするために年数回の研修会を行っています。それと同時に動物リハビリテーション学会をはじめとする獣医組織との連携や協働を深めながら、研究領域と臨床領域の両方から動物理学療法の発展に寄与していきたいと考えています。将来的には、海外のような動物理学療法教育システムの導入や資格の制定、法的整備なども視野にいれて活動を広げていきたいと考えています。そのためには、会員の皆様のご理解とお力添えがなによりも必要です。

ぜひ動物に対する理学療法部門への登録・参加をお待ちしております！